



47th GUEST H. Yoshiba

新しい生活へ期待に胸をふくらまし、
新しい可能性を持った家族がやってくる

text_Chiaki Okawara

「これまで定住、別荘住まいの方は取り上げてきたが、まさに今から住民になるうとしている方は初めて。5丁目に現在新築を建設中(7月完成予定)の吉羽浩嘉さんだ。現在東京池袋に奥様とお子さん4人の家族6人で暮らしている。まだ小学生のやんちゃ盛りのお子さんを待つ働き盛りの吉羽さんだが、別荘としてではなく、完全に栃木へ移住を決めている。『たまたま家内の知り合いでJR関係の方がいらして、フィオーレに土地を持つてはいるものの、『移住するつもりはないので買わない?』と話をくださったのが(移住の)きっかけでした」

「ついその気になったが、実際紹介された土地は傾斜がきつく、家を建てて住むとなると不都合も多い。それでも、他の区画をみせてもらうべく不動産会社にかけこみ紹介されたのが現在家を建設中の土地。幸い子どもたちも乗り気になってくれたので、生活拠点を栃木へと移すことを決意。就職先だった。一方、移住する、しないに関わらず、今の仕事は自分にとって生涯ずっとやり続ける仕事ではないと感じていた。何か他の可能性を探していた時に見つけたのがドローンビジネスだった。ドローンといえば動画撮影が取り上げられがちだが、災害の現場では人の入れない危険個所の調査や、救援物資運搬などかなり貢献している。また屋根や屋上の点検や、測量など重労働だった作業も人の手を煩わせることなくできる。その他にも農業散布や宅配便など様々な場面で活用されている。ドローンの利点は映像をリアルタイムで見ながら撮影できることだが、操縦技術がものを言う。

「常にやり続けていないとつまづく飛ばせないんです。技術向上のためにいろいろな場所でも撮影したいのですが、人の土地を勝手に撮影できない。そこで知り合いのお寺さんに頼んで練習させてもらっただけです」

「この映像お金出すよ」と言われて、それがわたしのドローンでの仕事第一号です(笑)」

「自分の家が出来上がった感じがします。完成までのドラマみたいなものがつくれたらいいな」と人生の大きなイベントとあらば記録に残したいという想いは誰にでもあろう。それもドローンであれば今まで見たことのないような映像で残すことができるのだ。「災害協定など大手との

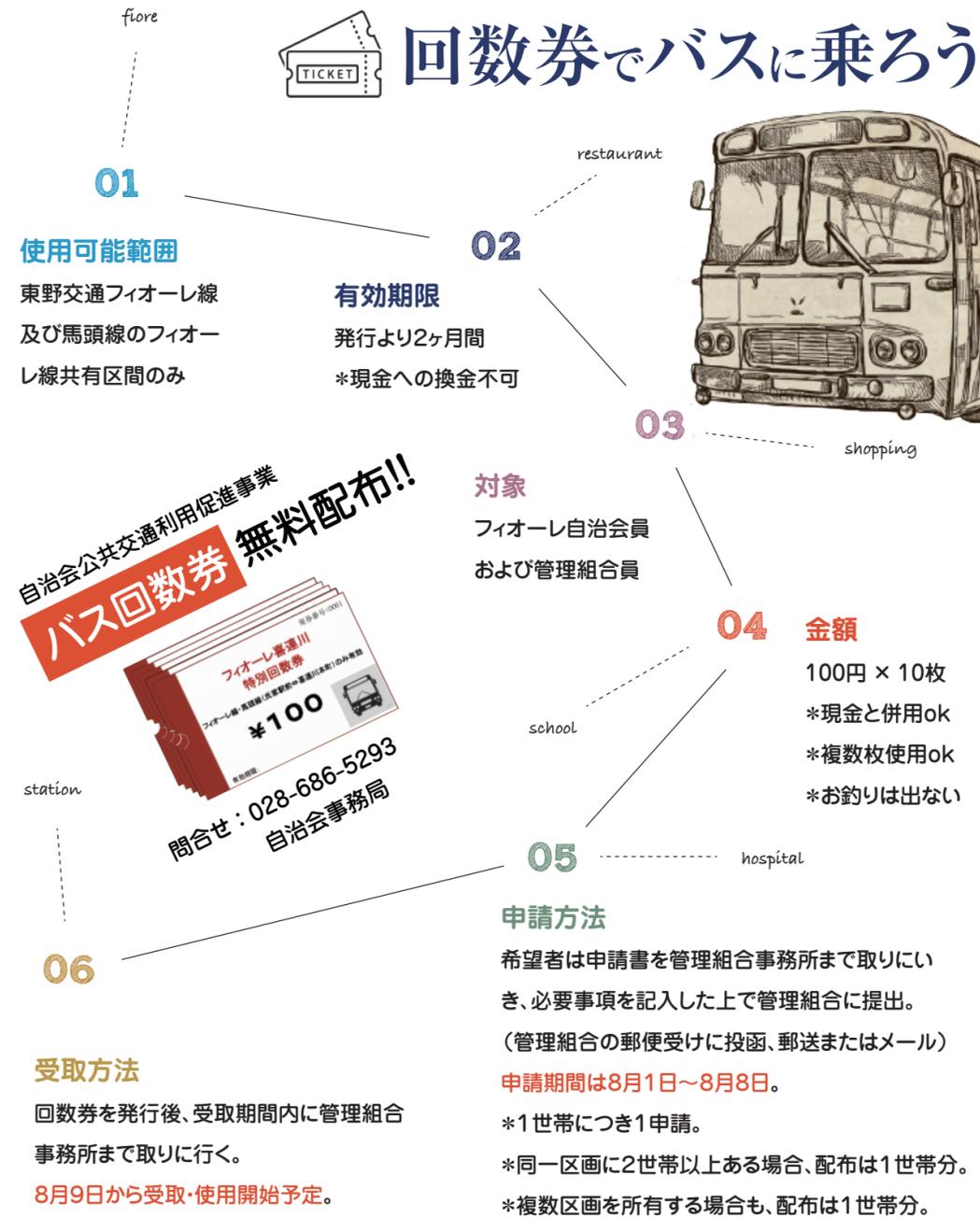
「家に住む前から、近所の方が『若い家族が住むのは嬉しいわ』と喜んでくださったのが嬉しくて、私自身もフィオーレ全体に貢献したいと思っています。それと先日、家内もバイクデビューしたので一緒にツーリングしてください方がいます」

「仕事ではなく、個人レベルで地域のお役に立てることがあると思っていますが、どんな需要があつてどうお役に立てるかとはわからないので、何でもご相談ください」

「アイデア次第でいくらでも可能性が広がるドローン。あなただけの使い方があられるかもしれない。最後にこれから新住民となるにあたってひとこと。」



回数券でバスに乗ろう。



自治会公共交通利用促進事業実施に至る経緯

現在一日3便走る東野交通フィオーレ線は近年赤字路線となっており、市は東野交通へ赤字分の約600万円を補助することでこの路線を存続させている。一方、平成29年度のフィオーレ線の平均乗車密度は「1.9」で「1.0」を下回っていた平成28年度から現在大幅に改善中。県による助成対象の目安となる平均乗車密度「2.0」までわずか「0.1」と迫っている。仮に平均乗車密度が上昇し、県による助成対象となった場合は、市の東野交通に対する負担がほぼ半分になる。自治会はまずこれを目指し、その後にバスの増便、運行時間の変更、延伸などを市に要望していく方針のもと本事業を計画。今年の4月22日の自治会定例総会で承認され、その後の意見交換会などでの協議の結果、自治会員や管理組合員に無料で回数券を配布することが決定された。